

講演後、健康・スポーツ教育研究センターの松原誠仁副センター長（右）から花束を受け取る荒木センター長



講演台に立つ荒木センター長

糖尿病研究の最前線 奮闘の軌跡たどる

荒木センター長 紫綬褒章受章を記念し特別講演

荒木栄一健康・スポーツ教育研究センター長の紫綬褒章受章を記念する特別講演会が6月19日（金）、50周年記念館で開かれました。同センター主催。教職員、学生のほか本学が包括連携協定を結ぶ自治体や医療機関の関係者など100人近くが出席。荒木センター長は「インスリンの作用メカニズムの解明—糖尿病病態の理解と新規治療法の開発のために」と題し、自身の糖尿病研究の軌跡をたどりしました。

紫綬褒章は、科学技術分野における発明・発見や、学術及びスポーツ・芸術文化分野において優れた業績を挙げた人に授与されます。荒木センター長は、糖尿病学の分野においてインスリン受容体の下流にあるシグナル伝達的方式を発見し、糖尿病の病態解明に貢献しました。また、治験を基に新たな治療薬の開発に道を開きました。

講演の中で荒木センター長は、「奇跡の発見」「奇跡の薬」と言われた約1世紀前のインスリン発見から紐解き、多様な機能を持つインスリンと糖尿病病態との関係を説明。インスリン受容体遺伝子転写調節機構の解明や、シグナル伝達分子(IRS-1、IRS-2)の発見に至るまでの自身の歩みを紹介しました。

また、荒木センター長は、県内自治体と共同で取り組んだ糖尿病予防に関する活動や、地域の高齢者を対象に健康・スポーツ教育研究センターで現在進行中の「阿蘇プロジェクト」の内容にも言及。「様々な年代の人たちのベストパフォーマンスを達成させるため、（今後も）できることをやっていきたい」と締めくくりました。

(NL編集部)

感染症まん延時の保健所支援「IHEAT」

全国初 学生、教員全員が要員登録

公衆衛生看護学専攻科



IHEATに登録した後、熊本県、熊本市の関係者と記念撮影する公衆衛生看護学専攻科の学生たち

感染症まん延等の健康危機が発生した場合に地域の保健師らの専門職が保健所等の業務を支援するIHEAT（アイヒート）の説明会が6月18日（木）、公衆衛生看護学専攻科の学生20人を対象に本学で開かれました。

5月に本学と熊本県、熊本市の3者で締結した「健康危機管理分野における包括連携協定」に基づく取り組み。県健康危機管理課の石見怜奈技師（保健師）が健康危機発生といった有事に備えたIHEATの

概要を説明、市健康危機管理課の水上千絵主幹が、コロナ禍におけるIHEATの活動を紹介しました。

説明会修了後、同専攻科学生全員がIHEAT要員として登録しました。学生を対象とした大学単位のIHEAT要員登録は全国初のケースです。また、教員も新たに2人が登録。既に登録していた2人を含め、専攻科の教員・学生全員がIHEAT要員として地域の健康危機管理に貢献できる体制が整いました。(NL編集部)



草刈 大知
医学検査学科助教

熊本大学大学院にて、今回のパンデミックに対する備えとして、抗新型コロナウイルス活性を有する天然由来化合物の探索を行って参りました。この過程で、感染性を有したウイルスの取り扱い方法に加え、PCRやELISAなど、臨床検査技師として活躍するために必要な操作に関して多数実施しています。本学で学ぶことと研究や臨床が地続きで繋がっていることを学生に伝え、実験操作の手技だけでなく、実験の原理原則を知ることの大切さと面白さも伝えて参る所存です。



川本 紀子
看護学科助教

私は、学生から社会に移行したばかりの新人看護師のキャリア・アダプタビリティについて研究しています。これは、社会や環境の変化に柔軟に対応し、仕事に適応しながら自ら望むキャリアを築くために必要な能力です。専門職としてキャリアをスタートさせたばかりの人々が、様々な困難に向き合っていきいきと働き続けられるよう、この研究を看護基礎教育に活かしたいと考えています。

動作解析、自身の特性を知る

鶴屋バスケット部11選手にフィードバック

健康・スポーツ
教育研究センター

レポート

本学と包括連携協定を結んでいる鶴屋百貨店バスケットボール部の選手11人を対象としたLaboratory Test（ラボテスト）の測定結果に関するフィードバックを6月15日（月）、植木中央運動公園施設体育館で実施しました。

今回は、大学院リハビリテーション領域2年の岩切心優人さん（理学療法士）、黒瀬颯稀さん（理学療法士）、枝尾久美講師（理学療法士・アスレティックトレーナー）が、ジャンプ動作の解析結果や体幹筋の重要性について解説しました。選手たちは、昨年度の測定結果と比較しながら、自身の動作特性や筋力、姿勢の特徴について理解を深めていました。

本学では、選手個人への支援に加え、現場で選手を支えるトレーナーやスタッフに対しても、科学的根拠に基づくサポートを行っています。今後も選手が安心して競技に打ち込める環境づくりに貢献するとともに、教育・研究活動の一環として、実践的な学びの場を提供していきます。（健康・スポーツ教育研究センター 中村祐貴）



ラボテスト結果フィードバックで、体幹筋の重要性について説明する枝尾講師

「伝える」難しさ実感

今回の鶴屋百貨店バスケットボール部に対するフィードバックでは、主にジャンプ動作の解析結果について説明を行いました。解析結果を選手へ直接フィードバックする機会は今回が初めてであり、私にとって非常に貴重な経験となりました。

特に、専門的な内容をどのように分かりやすく伝えるか、また競技特性や選手個々の特徴を考慮したうえで適切なアドバイスを行うかという点に難しさを感じました。一方で、これらはスポーツ現場で活動するうえで重要な能力であり、今後さらに磨いていきたいスキルであると感じました。

また、フィードバック用紙の見方についての説明も担当しましたが、作成した資料をどのように活用すれば選手にとってより有益な情報提供につながるのかという点についても多くの学びがありました。今回の選手の反応や聴衆の方々からいただいた意見を参考にしながら、今後同様の機会があった際には、より分かりやすく、選手のパフォーマンス向上につながるフィードバックを行えるよう努めていきたいと考えています。



大学院リハビリテーション領域2年
岩切心優人

広い視野持ち将来設計を

Dive! LSP「トップ講話」1年次生に向け竹屋理事長

Dive! LSPプログラムの一つである「トップ講話」が6月29日(月)、1300講義室にて開催され、竹屋元裕理事長・学長が「あなたの将来設計は何ですか?」と題して、全学の1年次生に向けて講話を行いました。

冒頭、竹屋理事長は、熊本出身で「近代医学の父」として知られる北里柴三郎の生い立ちや功績に触れ、師のマンズフェルトとの対話を引用しながら、柴三郎が「医学まだ学ぶに足る」との境地に至った経緯を紹介しました。

続いて、竹屋理事長自身が病理学の道に進む契機となった祖父の竹屋男綱・元銀杏短期大学理事長・学長とのエピソードを披露。学びを続ける中で出会った恩師たちとの思い出、これまで取り組んできた研究内容、そして病理学の魅力について、時折懐かしそうな表情を浮かべながら語りました。その話題に関連して、最近参加した学会で得た気づきや、自身の留学経験を踏まえた「外国生活のすすめ」についても触れ、若い時期に視野を広げ

ることの重要性を学生に伝えました。

講話終了後には、竹屋理事長の言葉に刺激を受けた学生が積極的に質問を寄せる姿も見られ、会場には学びへの意欲が一層高まった雰囲気広がっていました。学生たちは、人生の先輩の言葉に真剣なまなざしで耳を傾けていました。

(NL編集部)



竹屋理事長・学長の「トップ講話」を聴く学生たち

大学生活 学生が語る

高校進路指導者向け「進学説明会」

高校の進路指導担当教員を対象とした進学説明会を7月1日(水)、50周年記念館で開催し、熊本県内を中心に52校から64人の参加がありました。

第1部では、竹屋元裕理事長・学長が本学の教育理念と特色を紹介し、続いて久保高明入学試験委員長より令和9年度入試の概要と変更点について説明がありました。第2部では、在学生による「大学生活レポート」として、3人の学部4年生が自身の学びや学生生活、就職活動の経験を語りました。

参加した教員からは「学生さんたちの生き生きとした大学生活が印象的でした」「地域医療や保健医療を支える高等教育機関としての実績や自負を感じました」といった感想が寄せられました。(入試・広報課)



高校の進路指導担当教員に向けた進学説明会の会場

★短冊に願いを込めて…

7月7日は七夕。50周年記念館ロビーをはじめとした学内3カ所には6月下旬から笹飾りが設置され、学生たちが願い事を書いた短冊を吊り下げています。学友会の恒例行事。

「国家試験合格!」「みんなでテストも実習も乗り越えられますよう」「単位落としませんよう」といった学生らしい(?)願い事に混じって、「お金がたまりますよう」「不安のない生活がおくれますように」といった「安定志向」の願い事も。中には「ちょーぜつイケメン彼氏ができますように」と、「超絶神頼み派」も見られました。(NL編集部)

七夕飾りお目見え



■飯野高生20人が来訪 宮崎県えびの市にある飯野高校の2年生20人が6月10日（水）、本学を訪れました。一行は、入試・広報課職員から大学の概要や医療職について説明を受けました。来学した生徒はいずれも大学進学を希望しており、説明に熱心に耳を傾けていました。その後、看護学科実習室、アリーナ、図書館、レストランなどの学内施設を見学。実際のキャンパスライフや充実した教育環境を体感しました。（入試・広報課）



アリーナで職員からの説明を聞く飯野高校の生徒たち



「利益相反」の考え方を再確認した研修会の会場

■利益相反への理解深める 令和8年度の利益相反に関する研修会が6月24日（水）、I300講義室Lで開催され、本学の顧問弁護士を務める桜樹法律事務所の馬場啓弁護士が講演しました。馬場弁護士は、大学における利益相反の考え方について、本学のマネジメント規程を踏まえながら解説し、形式面・実績面それぞれのチェックポイントについて具体的に解説しました。後半は、今年5月から導入された民事訴訟のデジタル化を紹介し、自身の経験を交えながら変更点を分かりやすく解説しました。参加した教職員は、真剣な面持ちで耳を傾け、理解を深めていました。（NL編集部）

インフォメーション

行事予定（7月6日～7月21日）	
7/7（火）	私の部屋でランチを
7/10（金）	大邱保健大学さよならパーティー
7/19（日）	夏季オープンキャンパス

※「NEWSLETTER332号」は7月21日（火）に配信します。